

STOP! 薬害

8月24日は薬害根絶の日

1999年、厚生省は薬害再発防止を決意し「誓いの碑」を庁舎正面に建立しました。

全国薬害被害者団体連絡協議会は、建立の日を「薬害根絶デー」とし、毎年、国との交渉を続けています。私たちも、連帯して薬害根絶を訴えます。



子宮頸がんワクチン被害



推定339万人のワクチン接種者のうち2,906人に副反応が発生。うち1,572人には重篤な障害。

接種の積極的勧奨は中止されましたが、今も、全身の痛み・震え・歩行困難・記憶障害など様々な症状で苦しむ少女たちがいます。

被害者は、救済と再発防止を求めて4カ所の地裁で訴訟に踏み切りました。

薬害エイズ和解から20年たっても続く不正

ウイルスに汚染された血液製剤でエイズに感染させられた被害者に再発

防止を誓ったのは1986年。

その一方で、加害企業が国の承認を得ていない方法で血液製剤を製造し続けていることが昨年わかりました。

国の安全性行政が機能しているか監視する第三者組織の創設を、強く求めましょう。



こんなにあった日本の薬害

1956 ペニシリンショック

アレルギーによるショック死

1961 サリドマイド

睡眠薬を妊娠中に服用し、手足や耳に奇形をもった子どもが生まれた。被害児は世界で数千人。日本約千人。日本では、レント博士の警告後、9カ月間も販売を継続。

1965 アンブル入りかぜ薬

大衆薬で死亡者。発売中止に

1970 スモン

下肢の麻痺や視力障害などの末梢神経障害が多発。70年に殺菌剤キノホルムが原因と判明。被害者約12000人。1935年には副作用の警告があったのに、整腸剤として大量販売した。

1983 薬害エイズ

エイズウイルスにより汚染された血液凝固因子製剤により血友病患者約1800人がHIVに感染した。アメリカでは安全な加熱製剤が83年に実用化。日本では85年まで危険な製剤が使用された。

1988 陣痛促進剤

陣痛促進剤により、母子の死亡や重大な障害を残す被害が続い

た。

1989 MMRワクチン

3種混合ワクチンにより死亡者や重い障害が発生

1993 ソリブジン

抗がん剤との併用で死亡者多数

1996 薬害ヤコブ病

脳外科手術に使用したドイツ製ヒト乾燥硬膜がプリオンで汚染。100名以上がヤコブ病を発症し、植物状態の後に死亡。日本での使用禁止はアメリカから10年遅れの97年。

2002 薬害肝炎

C型肝炎ウイルスに汚染された血液凝固因子製剤を投与されたことで、1万人以上が感染。2008年に国・製薬企業と基本合意。

2002 薬害イレッサ

肺がん治療薬、発売直後から副作用死多発。抗がん剤の承認・安全性情報伝達に改善課題を残した。

2006 薬害タミフル

インフルエンザの治療薬を服用した後、飛び降りなど異常行動で死亡。10代には使用禁止に。

2013 子宮頸がんワクチン

ワクチン接種を受けた少女に歩行・記憶障害など後遺症が残る副反応。接種推奨を控える勧告。

2016/7



薬害根絶は 私たち医療人の願いです

8月24日は薬害根絶の日

1999年8月24日、厚生省は薬害エイズ事件を反省し、薬害再発防止を決意する「誓いの碑」を庁舎正面に建立しました。

全国薬害被害者団体連絡協議会は、この日を「薬害根絶デー」とし、毎年、国との交渉を続けています。私たちも、この行動に合わせて薬害根絶を訴えます。

子宮頸がんワクチン被害

ワクチン接種が2010年度から公費助成され、多数の健康被害を発生させました。現在、接種の積極的な勧奨は中止。

接種後、手足のしびれや脱力、けいれんなどの副反応。記憶障害をおこした少女もいます。

安全性を検討した委員15人の中11人がメーカーから金銭を受け取り、癒着が問題となっています。



サリドマイド被害

サリドマイド剤を飲んだ母親から、四肢の全部あるいは一部が短いなどの奇形をもつ新生児が多数生まれました。

被害発生から50年、和解から40年を超えても、新たな健康被害を発生させています。この薬害も、母親や家族にも消せない心の傷を残しています。

今年の薬害根絶デー集会では、原点に立ち返って学習し、今後の対策を考えます。



こんなにあった日本の薬害

1956 ペニシリンショック

アレルギーによるショック死

1961 サリドマイド

睡眠薬を妊娠中に服用し、手足や耳に奇形をもった子どもが生まれた。被害児は世界で数千人。日本約千人。日本では、レント博士の警告後、9カ月間も販売を継続。

1965 アンブル入りかぜ薬

大衆薬で死亡者。発売中止に

1970 スモン

下肢の麻痺や視力障害などの末梢神経障害が多発。70年に殺菌剤キノホルムが原因と判明。被害者約12000人。1935年には副作用の警告があったのに、整腸剤として大量販売した。

1983 薬害エイズ

エイズウイルスにより汚染された血液凝固因子製剤により血友病患者約1800人がHIVに感染した。アメリカでは安全な加熱製剤が83年に実用化。日本では85年まで危険な製剤が使用された。

1988 陣痛促進剤

陣痛促進剤により、母子の死亡や重大な障害を残す被害が続いた。

1989 MMRワクチン

3種混合ワクチンにより死亡者や重い障害が発生

1993 ソリブジン

抗がん剤との併用で死亡者多数

1996 薬害ヤコブ病

脳外科手術に使用したドイツ製ヒト乾燥硬膜がプリオンで汚染。100名以上がヤコブ病を発症し、植物状態の後に死亡。日本での使用禁止はアメリカから10年遅れの97年。

2002 薬害肝炎

C肝炎ウイルスに汚染された血液凝固因子製剤を投与されたことで、1万人以上が感染。2008年に国・製薬企業と基本合意。

2002 薬害イレッサ

肺がん治療薬、発売直後から副作用死多発。抗がん剤の承認・安全性情報伝達に改善課題を残した。

2006 薬害タミフル

インフルエンザの治療薬を服用した後、飛び降りなど異常行動で死亡。10代には使用禁止に。

2013 子宮頸がんワクチン

ワクチン接種を受けた少女に手足のけいれんなど後遺症が残る副反応。接種推奨を控える勧告。



8月24日は薬害根絶の日

薬害根絶は 私たち医療人の願いです

1999年8月24日、厚生省は薬害エイズ事件を反省し、薬害再発防止を決意する「誓いの碑」を庁舎正面に建立しました。

翌年からこの日を「薬害根絶デー」とし、薬害被害者の団体「薬被連」が国と交渉をおこなっています。私たちも、この行動に合わせて薬害防止を訴えています。

子宮頸がんワクチン被害防止

ワクチン接種が2010年度から公費助成され、多数の健康被害を発生させました。現在、接種の積極的な勧奨は中止。

接種後、手足のしびれや脱力、けいれんなどの副反応。記憶障害をおこした少女もいます。

安全性を検討した委員15人中11人がメーカーから金銭を受け取り、癒着が問題となっています。

第三者監視組織をつくらう

2010年4月「薬害肝炎検証再発防止委員会」は、薬事行政を監視・評価する「第三者監視・評価組織」を提案しました。

第三者組織があれば、米国でのフィブリノゲン製剤承認取消の時点で、海外情報の収集を勧告し、被害拡大も防止されたはずです。

いまだに実現されていない、第三者監視組織の実現を国に働きかけていきます。



こんなにあった日本の薬害

1956 ペニシリンショック

アレルギーによるショック死

1961 サリドマイド

睡眠薬を妊娠中に服用し、手足や耳に奇形をもったこどもが生まれた。被害児は世界で数千人。日本約千人。日本では、レント博士の警告後、9カ月間も販売を継続。

1965 アンブル入りかぜ薬

大衆薬で死亡者。発売中止に

1970 スモン

下肢の麻痺や視力障害などの末梢神経障害が多発。70年に殺菌剤キノホルムが原因と判明。被害者約12000人。1935年には副作用の警告があったのに、整腸剤として大量販売した。

1971 クロロキン

抗マラリア薬による視力障害。

1983 薬害エイズ

エイズウイルスにより汚染された血液凝固因子製剤により血友病患者約1800人がHIVに感染した。アメリカでは安全な加熱製剤が83年に実用化。日本では85年まで危険な製剤が使用された。



詳しく知りたい方は

- ・薬害薬害根絶デー 書庫
- ・全国薬害被害者団体連絡協議会（薬被連）

1988 陣痛促進剤

陣痛促進剤により、母子の死亡や重大な障害を残す被害が続いた。

1989 MMRワクチン

3種混合ワクチンにより死亡者や重い障害が発生

1993 ソリブジン

抗がん剤との併用で死亡者多数

1996 薬害ヤコブ病

脳外科手術に使用したドイツ製ヒト乾燥硬膜がプリオンで汚染。100名以上がヤコブ病を発症し、植物状態の後に死亡。日本での使用禁止はアメリカから10年遅れの97年。

2002 薬害肝炎

C肝炎ウイルスに汚染された血液凝固因子製剤を投与されたことで、1万人以上が感染。2008年に国・製薬企業と基本合意。

2002 薬害イレッサ

肺がん治療薬、発売直後から副作用死多発。抗がん剤の承認・安全性情報伝達に改善課題を残した。

2006 薬害タミフル

インフルエンザの治療薬を服用した後、飛び降りなど異常行動で死亡。10代には使用禁止に。

2013 子宮頸がんワクチン

ワクチン接種を受けた少女に手足のけいれんなど後遺症が残る副反応。接種推奨を控える勧告。

8月24日は薬害根絶の日

薬害根絶は 私たち医療人の願いです

1999年8月24日、厚生省は薬害エイズ事件を反省し、再発防止を決定する「根絶の碑」を庁舎正面に建立しました。

翌年からこの日を「薬害根絶デー」とし、薬害被害者の団体・薬被連が国と交渉をおこなっています。私たちはも、この行動に合わせて薬害防止を訴えています。



薬害イレッサの教訓

肺がん治療薬イレッサは、わずか5カ月の審査で2002年7月に承認され、発売後半年で180名、現在まで800名をこえる死者が出ました。

臨床試験での死亡例を伏せ「副作用の少ない夢の新薬」と宣伝されていたことが原因です。

最高裁では敗訴しましたが、臨床医に危険性が伝わらなかった「医薬品添付文書」の改善が必要です。

十分な情報無しで販売開始する抗がん剤の、副作用被害を救済する制度を作りましょう。



第三者監視組織をつくらう

薬害肝炎訴訟の原告団・弁護団と厚生労働省が結んだ「基本合意」にもとづき、「薬害肝炎検証再発防止委員会」が、2010年4月、「最終提言」をまとめました。

この中で、薬事行政を監視・評価し、薬害を防止する常設の「第三者監視・評価組織」を提案しています。

薬害の連鎖を断つため、いまだに実現されていない、第三者監視組織の実現を国に働きかけていきます。



こんなにあった日本の薬害



1956 ペニシリンショック

アレルギーによるショック死

1961 サリドマイド

睡眠薬を妊娠中に服用し、手足や耳に奇形をもった子どもが生れた。被害児は世界で数千人。日本約千人。日本では、レント博士の警告後、9カ月間も販売を継続。

1965 アンプル入りかぜ薬

大衆薬で死亡者。発売中止に

1970 スモン

下肢の麻痺や視力障害などの末梢神経障害が多発。70年に殺菌剤キノホルムが原因と判明。被害者約12000人。1935年には副作用の警告があったのに、整腸剤として大量販売した。

1971 クロロキン

抗マラリア薬による視力障害。

1983 薬害エイズ

エイズウイルスにより汚染された血液凝固因子製剤により血友病患者約1800人がHIVに感染した。アメリカでは安全な加熱製剤が83年に実用化。日本では85年まで危険な製剤が使用された。



1988 陣痛促進剤

陣痛促進剤により、母子の死亡や重大な障害を残す被害が続いた。医療機関に対する危険性情報の伝達不十分が原因。

1989 MMRワクチン

3種混合ワクチンにより死亡者や重い障害が発生

1993 ソリブジン

抗がん剤との併用で死亡者多数

1996 薬害ヤコブ病

脳外科手術に使用したドイツ製ヒト乾燥硬膜がプリオンで汚染。100名以上がヤコブ病を発症し、植物状態の後に死亡。アメリカでは87年に輸入を禁止。日本での使用禁止は10年遅れの97年。

2002 薬害肝炎

C肝炎ウイルスに汚染された血液凝固因子製剤を投与されたことで、少なくとも1万人以上が感染。被害者が全国5地裁で提訴。2008年に国・製薬企業と基本合意。

2002 薬害イレッサ

肺がん治療薬、発売直後から副作用死多発。抗がん剤の承認・安全性情報伝達に改善課題を残した。

2006 薬害タミフル

インフルエンザの治療薬を服用した後、飛び降りなど異常行動で死亡。2007年、10代の子どもには使用禁止に。

詳しく知りたい方は

- ・薬害薬害根絶デー 書庫
- ・全国薬害被害者団体連絡協議会（薬被連）

<http://www.gaiki.net/yakugai/ykd/>
<http://homepage1.nifty.com/hkr/yakugai/>

8月24日は薬害根絶の日

薬害根絶は 私たち医療人の目標です

1999年8月24日、厚生省は、薬害エイズ事件を反省し、再発防止を決意する「根絶の碑」を庁舎正面に建立しました。

翌年からこの日を「薬害根絶デー」とし、薬害被害者の団体・薬被連が国と交渉をおこなっています。私たちも、この行動に合わせて薬害防止を訴えています。



薬害イレッサとは



イレッサは、イギリスに本社を置くアストラゼネカ社が開発した肺がん治療薬。2002年7月、世界初にもかかわらず、5カ月の審査で承認されました。

「副作用の少ない夢の新薬」という宣伝で売り出されたが、発売後半年で180人が死亡。現在までに800人をこえる副作用死が報告されています。

医薬品の承認制度、宣伝広告・販売のあり方を問う裁判は、地裁で企業と国の責任が認められましたが、高裁で逆転敗訴、最高裁で審理されています。

第三者監視組織をつくろう

薬害肝炎訴訟の原告団・弁護団と厚生労働省が結んだ「基本合意」にもとづき、「薬害肝炎検証再発防止委員会」が、2010年4月、「最終提言」をまとめました。

この中で、薬事行政を監視・評価し、薬害を防止する常設の「第三者監視・評価組織」を提案しています。

大臣は約束を破り、未だに実現していません。薬害の連鎖を断つため、提言の実現を求めます。



こんなにあった日本の薬害

1956 ペニシリンショック

アレルギーによるショック死

1961 サリドマイド

睡眠薬を妊娠中に服用し、手足や耳に奇形をもった子どもが生まれた。被害児は世界で数千人。日本約千人。日本では、レント博士の警告後、9カ月間も販売を継続。

1965 アンプル入りかぜ薬

大衆薬で死亡者。発売中止に

1970 スモン

下肢の麻痺や視力障害などの末梢神経障害が多発。70年に殺菌剤キノホルムが原因と判明。被害者約12000人。1935年には副作用の警告があったのに、整腸剤として大量販売した。

1971 クロロキン

抗マalaria薬による視力障害。適応拡大により被害拡大。

1983 薬害エイズ

エイズウイルスにより汚染された血液凝固因子製剤により血友病患者約1800人がHIVに感染した。アメリカでは安全な加熱製剤が83年に実用化。日本では85年まで危険な製剤が使用された。

1988 陣痛促進剤

陣痛促進剤により、母子の死亡や重大な障害を残す被害が続いた。医療機関に対する危険性情報の伝達不十分が原因。

1989 MMR ワクチン

3種混合ワクチンにより死亡者や重い障害が発生

1993 ソリブジン

抗がん剤との併用で死亡者多数

1996 薬害ヤコブ病

脳外科手術に使用したドイツ製ヒト乾燥硬膜がプリオンで汚染。100名以上がヤコブ病を発症し、植物状態の後に死亡。アメリカでは87年に輸入を禁止。日本での使用禁止は10年遅れの97年。

2002 薬害肝炎

C型肝炎ウイルスに汚染された血液凝固因子製剤を投与されたことで、少なくとも1万人以上が感染。被害者が全国5地裁で提訴。2008年に国・製薬企業と基本合意。

2002 薬害イレッサ

肺がん治療薬、発売直後から多数の副作用死。

2006 薬害タミフル

インフルエンザの治療薬を服用した後、飛び降りなど異常行動で死亡。2007年、10代の子どもには使用禁止に。

詳しく知りたい方は

- ・全国薬害被害者団体連絡協議会（薬被連）
- ・薬害根絶デー 書庫

<http://homepage1.nifty.com/hkr/yakugai/>

<http://www.gaiki.net/yakugai/ykd/>

8月24日は薬害根絶の日

薬害根絶は 私たち医療人の目標です

1999年8月24日、厚生省は、薬害エイズ事件を反省し、再発防止を決意する「根絶の碑」を庁舎正面に建立しました。

翌年からこの日を「薬害根絶デー」とし、薬害被害者の団体・薬被連が国と交渉をおこなっています。私たちも、この行動に合わせて薬害防止を訴えています。



薬害イレッサとは

イレッサは、イギリスに本社を置くアストラゼネカ社が開発した肺がん治療薬。2002年7月、世界初にもかかわらず、5カ月の審査で承認されました。

「副作用の少ない夢の新薬」という宣伝で売り出され、現在までに800人をこえる副作用死が報告されています。

医薬品の承認制度、宣伝広告・販売のあり方を問う裁判は、地裁で企業と国の責任が認められましたが、控訴され高裁で審議されています。



第三者監視組織をつくろう

薬害肝炎訴訟の原告団・弁護団と厚生労働省が結んだ「基本合意」にもとづき、「薬害肝炎検証再発防止委員会」が、2010年4月、「最終提言」をまとめました。

この中で、薬事行政を監視・評価し、薬害を防止する常設の「第三者監視・評価組織」を提案しています。薬害の連鎖を断つため、この提言実現を国に働きかけています。



こんなにあった日本の薬害

1956 ペニシリンショック

アレルギーによるショック死

1961 サリドマイド

睡眠薬を妊娠中に服用し、手足や耳に奇形をもったこどもが生まれた。被害児は世界で数千人。日本約千人。日本では、レント博士の警告後、9カ月間も販売を継続。

1965 アンブル入りかぜ薬

大衆薬で死亡者。発売中止に

1970 スモン

下肢の麻痺や視力障害などの末梢神経障害が多発。70年に殺菌剤キノホルムが原因と判明。被害者約12000人。1935年には副作用の警告があったのに、整腸剤として大量販売した。

1971 クロロキン

抗マラリア薬による視力障害。

1983 薬害エイズ

エイズウイルスにより汚染された血液凝固因子製剤により血友病患者約1800人がHIVに感染した。アメリカでは安全な加熱製剤が83年に実用化。日本では85年まで危険な製剤が使用された。

1988 陣痛促進剤

陣痛促進剤により、母子の死亡や重大な障害を残す被害が続いた。医療機関に対する危険性情報の伝達不十分が原因。

1989 MMRワクチン

3種混合ワクチンにより死亡者や重い障害が発生

1993 ソリブジン

抗がん剤との併用で死亡者多数

1996 薬害ヤコブ病

脳外科手術に使用したドイツ製ヒト乾燥硬膜がプリオンで汚染。100名以上がヤコブ病を発症し、植物状態の後に死亡。アメリカでは87年に輸入を禁止。日本での使用禁止は10年遅れの97年。

2002 薬害肝炎

C肝炎ウイルスに汚染された血液凝固因子製剤を投与されたことで、少なくとも1万人以上が感染。被害者が全国5地裁で提訴。2008年に国・製薬企業と基本合意。

2002 薬害イレッサ

肺がん治療薬、発売直後から多数の副作用死。

2006 薬害タミフル

インフルエンザの治療薬を服用した後、飛び降りなど異常行動で死亡。2007年、10代の子どもの使用禁止に。

詳しく知りたい方は

- ・全国薬害被害者団体連絡協議会（薬被連）
- ・薬害薬害根絶デー 書庫

<http://homepage1.nifty.com/hkr/yakugai/>
<http://www.gaiki.net/yakugai/ykd/>

8月24日は薬害根絶の日

薬害根絶は 私たち薬局の目標です

1999年8月24日、厚生省は、薬害エイズ事件を反省し、再発防止を決意する「根絶の碑」を庁舎正面に建立しました。

翌年からこの日を「薬害根絶デー」とし、薬害被害者の団体・薬被連が国と交渉をおこなっています。私たちも、この行動に合わせて薬害防止を訴えています。



薬害イレッサとは

イレッサは、イギリスに本社を置くアストラゼネカ社が開発した肺がん治療薬。2002年7月、5カ月という異例の速さで承認されました。

「副作用の少ない夢の新薬」という宣伝で売り出されました。しかし、現在まで7年半の間に810人の副作用死が報告されています。

医薬品の承認制度のあり方、宣伝広告・販売のあり方を問う裁判は、今月、結審を迎えます。



第三者監視組織をつくろう

薬害肝炎訴訟の原告団・弁護士と厚生労働省が結んだ「基本合意」にもとづき、「薬害肝炎検証再発防止委員会」が、2010年4月、「最終提言」をまとめました。

この中で、薬事行政を監視・評価し、薬害を防止する常設の「第三者監視・評価組織」を提案しています。薬害の連鎖を断つため、この提言実現を国に働きかけていきましょう。



こんなにあった日本の薬害

1956 ペニシリンショック

アレルギーによるショック死

1961 サリドマイド

睡眠薬を妊娠中に服用し、手足や耳に奇形をもった子どもが生まれた。被害児は世界で数千人。日本約千人。日本では、レンツ博士の警告後、9カ月間も販売を継続。

1965 アンプル入りかぜ薬

大衆薬で死亡者。発売中止に

1970 スモン

下肢の麻痺や視力障害などの末梢神経障害が多発。70年に殺菌剤キノホルムが原因と判明。被害者約12000人。1935年には副作用の警告があったのに、整腸剤として大量販売した。

1971 クロロキン

抗マラリア薬による視力障害。

1983 薬害エイズ

エイズウイルスにより汚染された血液凝固因子製剤により血友病患者約1800人がHIVに感染した。アメリカでは安全な加熱製剤が83年に実用化。日本では85年まで危険な製剤が使用された。

1988 陣痛促進剤

陣痛促進剤により、母子の死亡や重大な障害を残す被害が続いた。医療機関に対する危険性情報の伝達不十分が原因。

1989 MMRワクチン

3種混合ワクチンにより死亡者や重い障害が発生

1993 ソリブジン

抗がん剤との併用で死亡者多数

1996 薬害ヤコブ病

脳外科手術に使用したドイツ製ヒト乾燥硬膜がプリオンで汚染。100名以上がヤコブ病を発症し、植物状態の後に死亡。アメリカでは87年に輸入を禁止。日本での使用禁止は10年遅れの97年。

2002 薬害肝炎

C肝炎ウイルスに汚染された血液凝固因子製剤を投与されたことで、少なくとも1万人以上が感染。被害者が全国5地裁で提訴。2008年に国・製薬企業と基本合意。

2002 薬害イレッサ

肺がん治療薬、発売直後から多数の副作用死。

2006 薬害タミフル

インフルエンザの治療薬を服用した後、飛び降りなど異常行動で死亡。2007年、10代の子どもには使用禁止に。

詳しく知りたい方は

- ・全国薬害被害者団体連絡協議会（薬被連）
- ・薬害薬害根絶に向けての活動

<http://homepage1.nifty.com/hkr/yakugai/>
<http://www.gaiki.net/act/activity.html#yakugai>

8月24日は薬害根絶の日

薬害根絶は 私たち薬局の目標です

1999年8月24日、厚生省は、薬害エイズ事件の反省をふまえ、再発防止を決意して「根絶の碑」を庁舎正面に建立しました。

翌年から8月24日を「薬害根絶デー」とし、薬害被害者の団体・薬被連が国と交渉をおこなっています。私たちも、この日に合わせて薬害防止を訴えています。

薬害イレッサとは

イレッサは、イギリスに本社を置くアストラゼネカ社が開発した肺がん治療薬。2002年7月、5カ月という異例の速さで承認されました。

「副作用の少ない夢の新薬」という宣伝で売り出されました。しかし、現在まで6年半の間に787人の副作用死が報告されています。

医薬品の承認制度のあり方、宣伝広告・販売のあり方を問う裁判は、今年度中に結審を迎えます。



薬害肝炎とは

薬害肝炎は、出産・手術などの出血に止血剤として使われた血液製剤により、C型肝炎にかかった事件です。被害者が裁判を闘った結果、国は責任を認めて和解できました。

350万人のウイルス性肝炎患者全員が救済されることをめざし、肝炎対策基本法制定の運動を進めています

薬害の根絶に向けて「薬害肝炎事件の検証及び再発防止のための医薬品行政のあり方検討委員会」で活動しています。



こんなにあった日本の薬害

1956 ペニシリンショック

アレルギーによるショック死

1961 サリドマイド

睡眠薬を妊娠中に服用し、手足や耳に奇形をもった子どもが生まれた。被害児は世界で数千人。日本約千人。日本では、レンツ博士の警告後、9カ月間も販売を継続。

1965 アンブル入りかぜ薬

大衆薬で死亡者。発売中止に

1970 スモン

下肢の麻痺や視力障害などの末梢神経障害が多発。70年に殺菌剤キノホルムが原因と判明。被害者約12000人。1935年には副作用の警告があったのに、整腸剤として大量販売した。

1971 クロロキン

抗マラリア薬による視力障害。

1983 薬害エイズ

エイズウイルスにより汚染された血液凝固因子製剤により血友病患者約1800人がHIVに感染した。アメリカでは安全な加熱製剤が83年に実用化。日本では85年まで危険な製剤が使用された。

1988 陣痛促進剤

陣痛促進剤により、母子の死亡や重大な障害を残す被害が続いた。医療機関に対する危険性情報の伝達不十分が原因。

1989 MMRワクチン

3種混合ワクチンにより死亡者や重い障害が発生

1993 ソリブジン

抗がん剤との併用で死亡者多数

1996 薬害ヤコブ病

脳外科手術に使用したドイツ製ヒト乾燥硬膜がプリオンで汚染。100名以上がヤコブ病を発症し、植物状態の後に死亡。アメリカでは87年に輸入を禁止。日本での使用禁止は10年遅れの97年。

2002 薬害肝炎

血液製剤でC型肝炎に感染した被害者が全国5地裁で提訴。

2002 薬害イレッサ

肺がん治療薬、発売直後から多数の副作用死。

2006 薬害タミフル

インフルエンザの治療薬を服用した後、飛び降りなど異常行動で死亡。2007年、10代の子どもの使用禁止に。

詳しく知りたい方は

- ・全国薬害被害者団体連絡協議会（薬被連）
- ・薬害資料館

<http://homepage1.nifty.com/hkr/yakugai/>
<http://www.mi-net.org/yakugai/>

8月24日は薬害根絶の日

薬害根絶は 私たちの薬局の目標です

1999年8月24日、厚生省は、薬害エイズなど悲惨な薬害を発生させた責任を反省し、薬害根絶のために最善の努力をする決意をこめて「誓いの碑」を建立しました。

それ以来、毎年、国や製薬企業が国民の命を大切にしているか、適切な安全対策をとっているか監視を続け、8月24日を「薬害根絶の日」として活動してきました。

今年のテーマは、イレッサ・タミフル・C型肝炎第二幕



●●● 薬害イレッサとは ●●●

イレッサは、イギリスに本社を置くアストラゼネカ社が開発した肺がん治療薬。2002年7月に承認申請後5カ月という異例の速さで承認されました。

「副作用の少ない夢の新薬」として大々的に宣伝されましたが、現在までに734人の副作用死が報告されています。

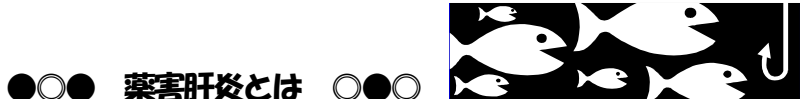
被害の救済を求める訴訟が進んでいます。医薬品の承認制度のあり方、宣伝広告・販売のあり方が問われています。



●●● タミフル薬害とは ●●●

インフルエンザの治療薬タミフルを服用した後、飛び降りなど異常行動で死亡した被害者の家族が救済を求めています。そのため2007年に、10代の子どもには使用禁止としました。

国は、小児科医による研究班を組織して研究をしてきましたが、研究者と企業との金銭関係が指摘されるなど、真相解明には国民の監視が必要です。



●●● 薬害肝炎とは ●●●

薬害肝炎とは、出産・手術などの出血に止血剤として使われた血液製剤により、C型肝炎にかかった事件です。被害者が裁判を闘った結果、国は責任を認めて和解できました。

訴えた原告だけでなく、350万人のウイルス性肝炎患者全員が救済される治療体制の整備、治療に伴う経済的負担の軽減など、私たちはこれからも恒久対策の実現を求めて活動します。

こんなにあった日本の薬害

世界中のどこにもこんな国はありません。

1956 ペニシリンショック

1961 サリドマイド

睡眠薬サリドマイドを妊娠中に服用した母親から手足や耳に奇形をもった子どもが生まれた。被害児は世界で数千人。日本約千人。日本では、レントツ博士(ドイツ)の警告にもかかわらず、その後9カ月間も販売を継続、被害が倍増した。

1965 アンブルかぜ薬

1967 ストマイ 抗結核薬ストマイで聴力障害などが多発

1970 コラルジル 心臓病薬コラルジルによる肝障害。被害者千人以上

1970 スモン

60年代から下肢の麻痺や視力障害などの末梢神経障害が多発。70年に殺菌剤キノホルムが原因と判明。被害者約12000人。1935年には副作用の警告があったのに、整腸剤として大量販売した。

1971 クロロキン 抗マラリア薬クロロキンによる視力障害。被害者千人以上。

1975 クロラムフェニコール

抗菌剤による再生不良性貧血が7年以上にわたり発生

1983 薬害エイズ

エイズウイルスにより汚染された血液凝固因子製剤により血友病患者約1800人がHIVに感染した。83年アメリカで安全な加熱製剤が使用されるようになってからも、日本では85年まで非加熱製剤の使用が継続された。

1988 陣痛促進剤

陣痛促進剤により、母子の死亡や重大な障害を残す被害が続いた。医療機関に対する危険性の情報伝達が不十分で、安易に計画分娩をすすめたことが原因。

1989 MMRワクチン 3種混合ワクチンにより死亡者や重い障害が発生

1993 ソリブジン 抗がん剤との併用で死亡者多数

1996 ヤコブ病

脳外科手術に使用したドイツ製のヒト乾燥硬膜がプリオンに汚染されていたため、100名以上がヤコブ病を発症し、植物状態の後に死亡。アメリカでは87年に輸入を禁止したのに、日本での使用禁止は10年遅れの97年だった。

詳しく知りたい方は

- ・ 全国薬害被害者団体連絡協議会 <http://homepage1.nifty.com/hkr/yakugai/>
- ・ 薬害資料館 <http://www.mi-net.org/yakugai/>

8月24日は薬害根絶の日

薬害根絶は私たちの薬局の目標です。

1999年8月24日、厚生労働省は薬害エイズなど悲惨な薬害の発生を反省し、薬害根絶のために最善の努力を重ねていくことを国民に対し誓う決意のもと、厚生労働省の敷地内に「誓いの碑」を建立しました。

この「誓いの碑」を薬害根絶のシンボルとして、国や製薬企業が国民一人ひとりの命を大切にしているか、医薬品の危険性に注意を払い適切な対策をとっているかなど、絶えず厳しい監視の目を向けていくことが私たち国民の重要な役割です。

この夏も焦点は、薬害肝炎と薬害イレッサ



●●● 薬害肝炎とは ●●●

薬害肝炎とは、出産・手術などの出血時や新生児出血症などに止血剤として使われた血液製剤によって多くの方がC型肝炎にかかってしまった事件です。肝炎感染のために、それまでの生活が一変してしまった方、つらい治療を余儀なくされている方、経済的保障がないため治療も出来ない方、夢を諦めざるを得なかった方、多くの被害者がこれまで福岡・大阪・東京・名古屋で裁判を闘ってきました。9月7日には、仙台訴訟判決も出ます。国と製薬会社が責任を認めること。ウイルス性肝炎の治療体制を整備すること。治療に伴う経済的負担の軽減など、私たちはこれからも恒久対策の実現を求めて活動します。



●●● 薬害イレッサとは ●●●

イレッサは、イギリスに本社を置くアストラゼネカ社が開発した肺がん治療薬です。「副作用の少ない画期的な夢の新薬」として大々的に宣伝され、2002年7月に承認申請後6ヶ月という異例の早さで世界で初めて、日本で承認されました。ところが、承認直後から死亡を含む重篤な副作用を発生させました。

現在までに706人の副作用死が報告されています。被害の救済を求める損害賠償請求訴訟が始まっています。医薬品の承認制度のあり方、宣伝広告・販売のあり方、医療従事者と患者への情報提供のありかたが問われています。

こんなにあった日本の薬害

世界中のどこにもこんな国はありません。

1956 ペニシリンショック

1961 サリドマイド

催眠鎮静剤サリドマイド（日本では胃薬とも配合）を妊娠中に服用した母親から手足や耳に奇形をもった子どもが生まれた。被害児は世界で数千人。日本約千人（認定数309人）。日本では、61年のレントツ博士（ドイツ）の警告にもかかわらず、その後9ヶ月間も販売を継続、被害が倍増した。

1965 アンブルカゼ薬

1967 ストマイ 抗結核薬ストマイで聴力障害などが多発

1970 コラルジル 心臓病薬コラルジルによる肝障害。被害者千人以上

1970 スモン

60年代から下肢の麻痺や視力障害などの末梢神経障害（64年にスモンと命名）が多発。70年に整腸剤キノホルムが原因とされるまでは、ウイルスによる伝染病と疑われ多数の自殺者も出た。被害者約12000人。キノホルムは第二次世界大戦前からアメーバ赤痢の薬として使用され被害も起きていたが、国は39年に劇薬指定を解除した。製薬企業も35年バロス警告（アルゼンチン）を無視し、戦後整腸剤として大量販売した。

1971 クロロキン 抗マラリア薬クロロキンによる視力障害。被害者千人以上。

1975 クロラムフェニコール

抗菌剤による再生不良性貧血が7年以上にわたり発生

1983 薬害エイズ

エイズウイルスにより汚染された非加熱の凝縮血液製剤により血友病患者約1800人がHIVに感染した。82年にエイズの血液感染が疑われた時点で非加熱製剤の禁止していれば被害は防げた。83年アメリカで加熱製剤が使用されるようになってからも、日本では85年まで二年四ヶ月も非加熱製剤の使用を継続し、その後の回収も不十分だった。

1993 ソリブジン 抗がん剤との併用で死亡者多数

1996 ヤコブ病

脳外科手術に際に使用したヒト乾燥硬膜（ドイツ）がプリオンに汚染されていたため、70名以上がヤコブ病を発症し、植物状態の後に多数が死亡。アメリカでは87年にこの製品の輸入を禁止したのに対し、日本での使用禁止は10年遅れの97年だった。